



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関わる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年12月現在、川崎3、横浜4、県域11 計18名で活動中!!

## ～ '07 神通研集会報告③～

川崎市で昨年行った聴協も参加しての防災訓練の様子を記録したDVDを見ながら、一般社会が理解できていないこと、今後取り組んでいかななくてはならないことを確認しました。 ～その1～

### <訓練を行って見えたこと>

- ・混乱時には、大きく「聞えません」と書かれたゼッケンも目に入らなくなるほど、通常の状態ではなくなる。
- ・コミュニケーションが取れないことで、聴障者も健聴者もイライラがつのる。
- ・理解できない説明を何度もされると、面倒になってしまい、適当に返事をしてしまうことで、要望と違った対応をされ、イライラは益々つものという悪循環が起る。
- ・聴覚障害は、目で見てははっきりわかる障害と違って、何をどうしたらよいのかという想定がされにくい。

## ～ 定例会 ～

11月24日、定例会を行いました。

主に関東通研集会の報告を元に、意見交換を行いました。関東通研集会では、災害への取り組み、自立支援法施行後の状況等、各地の参考になるご意見を伺うことが出来ました。「手話検定試験」に関しては、あくまでも自己の判断基準であり、サークル間で競争にならないような配慮が大切であることを確認しました。サークル運営について前向きに取り組んでいらっしゃるたくさんの方々にお会いできて、楽しく有意義な2日間でした。

11/25、サークル班メンバーも所属する厚木市手話サークル「あゆの会」30周年記念式典が開催されました。「聴障者の福祉向上を目指し、共に歩んで30年」サークルの原点がありました。

【次回定例会】12月16(日) 10:30～  
横浜ラポール・喫茶室

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

私は今、仕事の関係で映画の撮影現場に入っています。役割は演技指導担当。相手はハリウッドの俳優たち。意思の疎通は英語です。カット毎に「動きはこれでいい?」「いいですよ」といった会話を交わすのですが、忙しいときや距離があるときはつい、声よりも顔の表情と手が先に動いてしまいます。そう、英語と手話、ごちゃ混ぜの会話なのです(笑)。それでも彼らは理解できますので。手話って、すごいですね。 “もうちゃま”